

比較文化会報

June 1986 No. 7

事務局 青森県弘前市稔町13-1
弘前学院大学英米文学佐藤研究室
電話 (0172) 34-5211 内線 19

発行者 山 浦 拓 造
編集者 佐 藤 幸 正

学会設立前夜

第一回設立準備委員会

事務局 佐藤 幸正

「日本比較文化学会」は今年で第八回大会を青森大学で迎える。同志社大学を中心とする関西支部設立の年でもあり、この辺で、学会の歩みを振り返りながら、過去を記録に留めておく必要に迫られてきたと思われる。というのも、学会設立まで何回も会合を重ねた筈なのに、もはや記憶から消えていることが多いからである。その当時のことを執筆して下さる方は多くおられ、何も青二才の出しゃばることでないのだが、事務局の一員として記録を扱ってきた立場から、口火を切らせていただきたいと思う。学会設立準備段階から参画されてきた諸先生には、折に触れ、多方面からエピソードや思い出等を述べていただき、あるいは拙文を訂正・補足していただき、七年以上に渡る歩みの全貌を明確にするために、御協力をお願いしたいと思う。事務局の願ひも、また拙文をあえてしたためる目的もそこにあるからである。

日 時 昭和54年2月10日(土)

場 所 弘前学院大学
出席者 花田隆・芳賀馨・宇野秀夫・太田敏雄・佐藤憲和・岩岡悠紀子・小林俊哉・佐藤幸正(西村・吉沢・斧田は欠席)

議題一 学会設立の趣旨及び経過説明
(芳賀)

- 二 名称及び会則
- 三 当初の運転資金及び会費
- 四 人事に關して
- 五 会員募集について

以上のことが七年四ヶ月前に相談されたのであった。学会の名称はその時「東北比較文化学会」と名付けられ、以後第一回大会(昭54・6・16 於弘前学院大)から、第三回大会(昭56・6・6 於弘前学院大)まで続く。しかし、その名称も「日本比較文化学会」に改められるのは第四回大会(昭57・6・5 於郡山)以後のことであった。この間、準備委員だった人々にも移動がみられ、太田氏は弘大から教授として新潟学園女子短大へ栄転され、岩岡さん(東北女子大非常勤)は栃木県へ嫁いでいる。

人事については次のように決まった。

会長にシエクスピリアンの山浦拓造

(弘前学院大)。副会長に花田隆(弘大教育学部)と芳賀馨(福島県立医大アメリカ文学)の両氏。理事は各大学から若干。事務局長に西村清巳(弘大医療技術短大)。監事に森一(福島県立医大)と奈良岡保(元県立黒石高校長)の両氏。学会の特徴を示すように、既にいろいろな分野の専門家が集まっていたのである。この時の布陣は現在もあまり変化なく、中心的な役割を果してきた人達である。

学会設立の主旨及び経過についての記録は残っておらず、当時どんな相談をされたか分らず困っている。このことについては、学会生みの親であり、リーダー格の芳賀先生にお聞きしなければならぬと考えている。ただし、学会の目的については会則通りの「諸文化の研究を促進し、学術の発展・文化の交流に資すると共に」という文面は、その時点で作成されたのであった。だが、文面作成までの過程についても、もはや記憶になく、学会プレインのどなたかの説明を願いたいと思っている。

学会設立準備委員会はその後第二回(昭54・3・31 於弘前学院大)及び、第三回(昭54・5・3 於弘前学院大)を経て、設立総会(昭54・6・16 於弘前学院大)へと引き継がれてゆくのである。

昭和61年6月7日

(弘前学院大英文学教授)

関西支部発足

この度、同志社大学を支部事務局として、「日本比較文化学会関西支部」が発足する運びとなりました。現在、会員数は20名余りですが、これからさらに増えていくことと思います。

広く「文化」というものを捉えて、文学・語学のみならず、あらゆるジャンルの方々の交流・情報交換の場として、関西支部がお役に立てばと願っています。また、支部活動の一環として、独自に『比較文化研究』の発行も予定しておりますので、会員諸氏の積極的な御投稿を期待しています。

なお、暫定的に次の通り支部役員が決まりましたので御報告申し上げます。

- 支部長 石黒昭博(同志社大教授)
- 副支部長 畠中康男(梅花短大教授)
- 幹事(書記) 山内信幸(新島学園女子短大専任講師)
- 幹事(会計) 吉藤京子(梅花短大専任講師)

(新島学園女子短大 山内信幸)

新会員紹介(順不同)

- 石黒昭博(同志社大・言語学・英語学)
- 宮本英雄(同志社大・英語教育学)
- 畠中康男(梅花短大・英文学)
- 龍城正明(同志社大・言語学・英語学)
- 石原堅司(聖隷学園聖泉短大・言語学・英語学)
- 松原正行(梅花短大・言語学・英語学)
- 吉藤京子(梅花短大・言語学・英語学)
- 西山文夫(長崎外国語短大・言語学・英語学)
- 勝山貴之(同志社大大学院・イギリス文学)
- 村上扶美枝(同志社大大学院・言語学・英語学)
- 池田 茂(同志社大大学院・言語学・英文学)
- 南井正廣(東海大付属仰星高校・イギリス文学)
- 岡 良和(甲南高校・言語学・英語学)
- 岩本光世(大谷女子短大・言語学・英語学)
- 河井恵子(梅花短大・アメリカ文学)
- 友次克子(同志社大大学院・言語学・英語学)

- 宇田千春(同志社大大学院・言語学・英文学)
- 北林利治(同志社大大学院・言語学・英文学)

樋谷和司(同志社大大学院・言語学・英文学)

赤楚治之(桃山学院高校・言語学・英文学)

田中英雄(梅花短大・イギリス文学)

小笠原真司(長崎外国語短大・英語教育学)

小林一也(兵庫教育大学大学院・数学)

水田強一(福岡県立筑前高校・社会科)

太田一朗(岡山商科大・国際貿易・商業)

林 祐一(福島大経済学部)

福島支部十二月例会

一九八五年十二月十八日、えびすグラウンドホテルで、福島支部例会開催。

一、支部組織改組問題

二、八六年総会(青森大学)の取組

三、関西支部発足及び八七年会(同志社大学)の承認 など討議。

終って新入会員の歓迎会。新入会員は次の通り。鈴木美恵子(養護学校教諭・異

常児教育)、高橋八重子(福島女子短大・デザイン学)、武山知枝(英語塾教員・英語教育学)。参会者森支部長 以下十名。

福島支部三月例会

三月二十六日、福島えびすグラウンドホテルで例会を開催。林祐一氏「現在のチャリング・クロス街八四番地」の発表を聞いたあと、(一)今後の支部例会を少くとも年二回(九月と三月)開催する。(二)東北支部の組織がえを検討するなどを決めた。出席者は森支部長以下八名。

「マーティ」出版さる

すでに、ハデイ・チエイエフスキのテレビドラマ「プリンタズ・メジャ」が開文社から出版されているが、今度、同社から、チエイエフスキ「マーティ」(Marty)が出版された。一九五〇年代、アメリカテレビドラマの黄金時代の代表作の一つである。編者は、芳賀馨、太田敬雄、S・イエーツの三人。太田編「教育資料」も完備(一、〇〇〇円)

弘前学院大学の国際交流計画

…ある小さな実験

小林俊哉

昭和五十九年弘前学院大学・短期大学と米国イリノイ州ノース・セントラル大学(NCC)の間に姉妹校関係が結ばれて二年がたった。大規模校の国際交流計画にくらべると、量的なスケールではかなり細々としてはいるが、質的にはそれなりの成果をあげたものと思う。NCCが、筆者の母校である事に加え、米メソジスト教会高等教育機関の積極的な支援を得る事ができ、交渉が比較的順調に進んだ事はさいわいであった。本稿では弘前学院大学という小規模校で始まったこの国際交流計画二年間の経過報告をしたい。

一年に若干名ずつの教員並びに学生の交換をその主な柱に、五十九年九月にNCCから学生が一名来日した。学生の場合、留学中の履修科目については母校での単位に換算する事になり、成績評価は帰国後それぞれの母校で相手校からの詳細な報告書にもとづき、なされる事になっている。この点では、主にインデペンデント・スタディとして来日するNCCの学生は、比較的広い範囲で日本での履修が可能である。こちらから派遣する学生は、九月から半年間という留学期間の

契約もあり、日本の通年での単位修得とNCCのクォーター・システムとの板ばさみになってしまふ。この結果、留学中の単位とその年の前期の単位をつなぐ必要上、NCCでの履修可能な科目は第二

外国語としての英語、英米文学、英語学等に限定される。ちなみに、五十九年に来日した学生は、日本語、こけし・はとぶえ(津軽の伝統玩具)製作、滞日中の体験のドキュメンタリー映画製作などを行い、NCCでの単位認定をうけた。

昨六十年九月には、NCCから教授夫妻が来日、またこちらからも日本文学部の教員と英米文学部の学生それぞれ一名を派遣した。紙面の都合で詳細は省かざるをえないが、それぞれ訪問先で大きな成果をあげた。

NCCの教授は一般教育の「文学」を週一コマ担当したほかに、専門が演劇である事から夫妻で英語劇の指導、また英会話のレッスン、講演、学内外の教員との交歓など、約四か月を精力的に過ごした。

本学からの、教員と学生も名誉市民章を授与されるなど歓待された。英語のハンディキャップはあったものの、それをよく克服、充実した研究、学びの時を過ごした。

今後は、彼我の根本的な大学の在り方の相違をしっかりとふまえた上で、両大の信頼関係を基礎に交流の嵐的拡大もはかってゆきたい。

〈近況報告〉

青森大学 藤原廉作

昨年度第四回目の渡米報告として考究対象は累年考究の「日英語」の文法に関する文法的比較に基本をおきやうと、合目に到達した位の処。まだまだ前途遠くの有様です。健康の許す限り初期の目的に悪戦不斗で、結局西欧語(英語)を用いる人が「日本文の記述可能性」の手助がその目的達成です。

在宅管理栄養士 小松山富士子

福島県会津地区の在宅栄養士として、市町村の健康相談や地域の食生活改善指導等を月に数回行なっております。ひとりぐらしのお年寄り、寝たきりの奥さんの世話をたったひとりで行なっている男の方、今までの私の体験外の世界を目前にして戸惑う事も多かったのですが、現在はその方達が精神的に独立する為の機会のひとつとなる事を願って保健婦と一緒に仕事をさせていただいております。

新島学園女子短期大学 佐藤公彦

二月十六日から三月十八日にかけて、十五名の学生を連れて、フランス短期留

学に行つてまいりました。前半は悪天候と病人に悩まされましたが、ブルゴーニュ大学 C. I. E. F. での三週間の語学研修、パリでの一週間の観光は、様々な面で収穫の多いものであったと思います。

新島学園女子短期大学 太田敬雄

新島学園女子短大の第三回短期アメリカ留学を引率して一ヶ月、テネシー・ニューヨーク、ワシントンDC、サンフランシスコを旅行。同時期、台湾、フランス及びタイへの旅行も実施されており、全学で五百名ほどの短大から同時期に九十名の学生が海外経験をつんでいることになりました。これで海外からの受け入れ体制ができ上れば、真の国際文化学科としてユニークな学校になると楽しみに仕事をしています。

福島県立医大 芳賀 馨

ヘレン・ハンフ研究・紹介を始めて数年経った。各方面からの依頼原稿も初期の目的通り集まっている。今年中に、開文社から出版するハンフ論集の整備に忙殺されているが、本のタイトルを「ローキヤム ヘレン・ハンフ」としたいと考えるが、執筆諸氏の御高見は?

新島学園女子短期大学 山内信幸

先日、送る側として初めての卒業式を経験しました。コンパの席で、寂しさが無性にこみ上げてきました。学生達の卒業を惜しみ泣く姿を見ると、つい時間たつのも忘れ、気が付くと翌朝になっていました。今年もこの寂しくも嬉しい経験ができることを祈っています。

弘前大学 佐藤 憲和

昨年八月イギリスから帰り、しばらくホーッとしてばかりいましたので、新学期からは、整理もかねて動かなければと思っています。イギリスでは、さまざまな所で、古今東西の絵画や美術品を沢山見ることができた。今後の勉強で、そのことを役立てることができたらと願っています。

新島学園女子短期大学 中澤紀美子

ゼミでオーストラリア研究を取り上げて三年目を迎えた。シドニーの位置も分らなかった学生が一年たつと「オーストラリア」という活字があれば活字の方から目にとびこんでくると言って喜んでいたら、手探りで始めたゼミだったが、これからも学生と共に学びつつ充実させてゆきたい。

福島大学教育学部附属養護学校

鈴木美恵子

医大病院内にある養護学校に勤務していたことがきっかけとなり、比較文化学会と出会うことになりました。学会との出会いというものは、つまり会員の方々の出会いでもあります。このすばらしい出会いを大切にしてがんばりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

光屋学院野辺地工業高校 町屋昌明

昭和六十年七月から八月にかけ、スコットランドで四百年の伝統あるエジンバラ大学で授業を受けた。その内容は語学力の実践に重点が置かれていた。

私個人の今回の英国再訪の目的は、詩人ウィリアム・ワーズワスの湖水地方を訪ね、十和田湖と対比検討することであった。

ホームステイでは、デキソン夫妻と子供達から、日本とイギリスの教育、政治、文化等の比較をしてもらった。

二年前の始めての訪問とは異なり、幾分心理的余裕もったおかげで、ケンブリッジ大学ではワーズワスを調べたり、また、十和田湖のスライドを通して、湖水地方との比較から、一詩人が、フランス革命や、産業革命の時代をいかに生きたかを論じたりして、二つの湖水の対比

から、日英両国の友好関係を密にするための一つの仕事をしたという実感があつた。

新島学園女子短期大学 松井宣也

この三月中旬に、二週間程中国にゆき、天津から杭州、上海とまわって来ました。やはり商売がら気になるのは食べ物や飲食習慣のことです、大分話のたねがふえましたので、相手をさがしています。

福島県立医大 引地 岳雄

六十年九月三十日に帰国したが、旅はそれで終わるのではなかった。六十二年四月姫路市に開校する独協大講師としてクリス・クローは養子三人を連れてやって来る。ミス・ラムの指導の下日本の歌を三曲も四曲も私と一緒に歌ってくれたボメロイ小二年(当時)にミスタ・ヒキチが住む福島の子供の歌声を届けてやりたい。日本食堂「侍」でアルバイトをしていたスーザンは既に東京に住み、上智大学に通っているはず。頬を紅に染めて私の名刺を受け取った彼女。連絡してきたらどこに泊めようか。興奮はまだしばらく続きそう。

福島大学経済学部 林 祐一

なんとか卒業もきまり、この春、東海

銀行に入行することになりました。東北に生まれて、東北で育ったもので、配属の名古屋がとても遠く感じられます。まだ見ぬ地に想いを巡らしつつ、私のヨーロッパ旅行についての回想もつづつてみようかと思っております。最後に、私はといいますと、八十五年六月に福島で開かれた比較文化学会に出ているうちにいつの間にか会員になっていたという、幸運な星の下に生まれた男であります。

▲事務局だより▼

プログラム発送を早めますので、発表投稿のメ切り日を次のように変更致します。

1 研究発表レジメ

(1)十二月末日必着で事務局まで。

(2)横書四〇〇字詰原稿用紙・B五判(西洋紙半分大)二枚。

レジメはそのままコピー、製本致しますので、できればワープロ等でタイプした原稿ですと、きれいです。

2 シンポジウム レジメ

(1)及び(2)とも研究発表の場合と同じ。

その他、「会報」記事、研究論文集「比較文化研究」は従来通り三月末日のメ切りになります。